



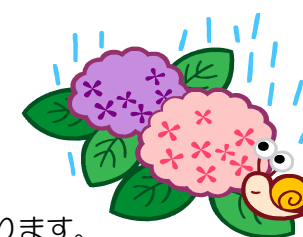
新潟県立柏崎常盤高等学校
1学年だより 第4号
平成26年5月29日発行

初めての中間検査を終えて

初めての常盤高校のテストが終わりました。振り返ってみて、どうでしたか？
今回のテストを終えて、一番多い感想は「勉強が間に合わなかった」というものでした。
先日、ベネッセの川村さんからの講演会の話では、「夏休みまで1日2時間、100日！」の勉強で、信じられないほど学力が上がる！というお話もありました。
以下は、中間テストの結果を受けての各科目の担当のからのアドバイスです。
だまされたつもりで今日から実行してみよう。絶対、上達する！！

教科	中間検査の反省	これからこうしよう！
国語総合	<ul style="list-style-type: none"> 漢字や古典文法など知識が「あいまい」にしか身につけていないので、「なんとなく合っているけれどよく見ると不正解」という解答が多かった。 問題文をよく読まなかったため、「答え」ではなく「答え方」のミスで減点されている人が多い。 	<p>国語も、漢字や文法事項については暗記科目です。暗記には「繰り返し学習」が不可欠。テスト前の自習の様子を観察していると、「教科書を眺めているだけ」の人がいるが、それでは絶対に知識は定着しません。</p> <p>繰り返し「書く」（場合によってはぶつぶつと声に出す）ことが重要です。体を動かした方が知識として定着しやすいはず。がんばってください。</p>
数学A 数学I	<ul style="list-style-type: none"> 直前に焦って問題を始めた生徒が多かったせいか、課題が提出されていても、時間をかけて解いている様子が見られなかった。（全部赤字、黒字で全部正解など不自然なものが見られた） テストでは、途中の式がないために減点されている解答が目立った。 	<p>数学は、「できるまで、何度も繰り返しやる」ことが定着への近道です。「問題集はテスト前までに一通り終わらせる」→「間違っただけの問題を中心に繰り返し練習する」という流れを作りましょう。遅くともテスト1週間前までには一通り終わらせましょう！！</p> <p>また、練習から「人に伝える解答作り」を心がけましょう。使った図や式は消さずに残しておくことで理解が深まり、また、課題の良い評価にもつながります。</p>

教科	中間検査の反省	これからこうしよう！
英語	<p>提出物などの提出状況はおおむね良好ですが、本当に積極的に取り組んでいるのかなという点が疑問です。提出することが目的ではありません。自分の実力をつけるための勉強だと思えば、取り組み方は違って来るはず。本気の勉強をしてきましたか？</p> <p>テストというのは1つのゴールであり、目標です。ゴールするまでの時間配分は考えて勉強しましたか。今週テストなのに、やっとワークブックに手をつけている人多かったようです。</p> <p>授業でやったらまずノートに、テストの前にワークにやって提出、繰り返していねいに勉強しましたか？</p>	<p>予習・復習のやり方については、「年間計画・進捗表」にすべて書いてあります。勉強のやり方は人それぞれ工夫するところですが、まずは学習の習慣が身につくまで言われた通りにやってみることで。念のためもう一度、「必ず予習。授業に集中。復習はその日のうちに！」これを実行するためには、自分の時間の中で、いつ、どうやって、どれ位やるか具体的に考えることです。英語はすき間時間の活用も有効です。</p> <p>予習・授業で理解したら、復習で覚えることが必要です。覚えるときは音読、書くこと！</p> <p>これができていれば、テストの前に慌てることはないはずですよ！</p>
世界史A	<ul style="list-style-type: none"> 試験範囲のプリントを復習した人とやらなかったと思われる人の差がはっきり表れた。 確実に覚えるために、よく読む作業がされていなかった。 記号で答えるのか、用語を書くのか、問題文の指示までしっかり読むこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ノートを見て、自分で用語を説明できるか、確認する。 出来なければ、教科書や資料集で再確認。（マーカーや下線をつけて、自分が何を見たか、わかるように） 太字の用語は確実に覚える。教科書の地図も合わせてみる。 最後の確認として、問題集をする。 用語は正しい漢字で覚えること。
化学基礎	<ul style="list-style-type: none"> 問題文の読み間違いや指示された形式で答えることができず、減点される。 問題集の解答の暗記になり、異なる形式で出題されると手が出ない。 用語を正しい漢字で書けない、カタカナ名がうろ覚え。 	<p>まずは授業でやった内容を理解するところから始まります。それができたら次に、問題集で理解度をチェックしていきます。問題もただ解くだけではなく、解答解説を読み、知識を深めていければより理解は深まり、応用力が身につきます。</p> <p>そのためにはテスト前は時間に余裕をもって準備することが肝要です。まずは授業で理解、次に十分な復習を行うように心がけましょう。</p>



裏面もあります。

おまけコラム

型破りか型なしか。

歌舞伎役者の中村勘三郎（十八世）のお話です。「歌舞伎なんて知らないし。」とか言わないで、まあ、読みなさいな。

この人は、伝統芸能である歌舞伎に新しい現代的な演出を取り入れて、それまで歌舞伎に興味がなかったようなお客さんまでたくさん劇場に集め、大人気を誇った役者さんです。（残念ながら若くして亡くなってしまいました……。）

この人が生前あるインタビューに答えていたのが印象的だったので、ちょっと紹介します。（細かい言葉遣いは忘れてしまったので、だいたいの内容です。お許しを。）

「江戸時代から何百年と受け継がれてきた伝統芸能の決め事やしきたり、そういう『型』をしっかりと身につけた人が、新しい、現代的な演出に挑戦していく。こういうのを『型破り』っていう。だから『型破り』というのは決して悪い事ではない。問題なのは『型』が身につけていないのに新しいことばかりに挑戦しようとする事。これは『型』が無いんだから『型（形）なし』っていう。『型破り』な歌舞伎は観ていて楽しいけれど、『型（形）なし』な歌舞伎は観ちゃいけない。」

さて、みなさん。みなさんの「学習の型」は身につけていますか？今回の学年だよりで紹介した「この教科の勉強はこういうふうにするといいよ！」というアドバイスは、いわば「学習の型」です。みなさんはこれからこの「学習の型」を身につけて行く必要があります。そして、それを身につけた上で自分なりの、自分にあったオリジナルの学習スタイルを確立して行ってください。一年生の今のうちから「自分だけの効果的な勉強方法を生みだそう」なんていうのは無理な話です。

では、型はどうやったら身につくか。答えはふたつ。

① 時間をかけること。 ② くり返し体を動かすこと。 そう、時間をかけて、くり返すしかないのです。そんなわけで皆さん。1年生の1学期。まずは学習の『型』を身につけるために時間を割いてください。繰り返しますが、「時間をかけない、効率的な勉強方法」は『型』が身につけてからはじめて追求できることなのです。

くれぐれも『型（形）なし』にならないように。がんばりましょう。

